

2026年7月3日

## 【武蔵大学×北海道中富良野町】 地域活性化・移住研究プロジェクトを2026年8月に実施

武蔵大学（東京都練馬区／学長 高橋徳行）は、持続可能な地域社会づくり、およびそれに貢献しうる人材の養成を目的とし、2024年11月に中富良野町と地域連携協定を結びました。この度、地域活性化・移住研究プロジェクトの一環として、2026年8月に地方移住に関する現地調査プロジェクトを実施することになりました。中富良野町はラベンダーで名高い観光地ですが、人口減少が続いているため、とくに若い世代の移住者を求めています。このプロジェクトは、参加学生（応募書類により選抜された学生6名）が自分自身を移住希望者と仮定し、移住者が中富良野町を選ぶ「決め手」は何か、現地におもむいて多角的に調べ、その結果を町にフィードバックし、若者の移住を呼び込むための新たな施策へとつなげ、これからのまちづくりに貢献することを目的としています。

### ■ 中富良野町 現地調査プロジェクト概要

・事前学習：2026年6月

3回程度、事前学習・調査を実施します。リサーチ方法は統計的調査（データの収集・分析等）と個別事例の研究（移住者からの聞き取り等）を組み合わせたものになります。中富良野町周辺の市町村や関東一円のローカルコミュニティのなかで移住者の積極的な受け入れによって人口を増やした事例の調査と巡見も行う予定です。

・現地調査：2026年8月1日（土）～8月6日（木）5泊6日

生活基盤のリサーチとして学校、保育園、病院、老人施設、交通機関（手段）、農園、工場など巡見します。増える一方のツーリストに対応する新しい観光案内所も見学します。各種のデータを分析し、個々の移住者たちからの聞き取りも実施。遠方の大学で学んでいる大学生（帰省中の若者）との交流も予定しています。

### ■ 中富良野町長 小松田 清氏のコメント

次世代に選ばれる町を目指す上で、大学生との協働は大変貴重です。学生の皆さんの先入観のない真っ直ぐな感性による分析が、多様な関わり方を提案する「やわらかな定住」への確かな一歩となると確信しています。

### ■ 参加学生（人文学部 英語英米文化学科 3年）のコメント

市民が主体となり、最新テクノロジーの力で地域課題に取り組むシビックテックに興味があるため、機械化・デジタル化を強みとする中富良野町でこれがどのくらい実現しているのか、将来性はあるのか、調べてみたいと思います。



講義の様子（リーダーシップ論）



中富良野町長 小松田 清氏

#### —報道関係者問い合わせ先—

武蔵大学 広報部 担当：増田・丹野（ますだ・たんの）  
TEL：03-5984-3813 E-mail：pubg-r@sec.musashi.ac.jp

## ■武蔵大学 日本で初めてリベラルアーツ教育を行った旧制高等学校がルーツ

〔アクセス：西武池袋線「江古田駅」から徒歩6分〕

武蔵大学のルーツは、東武鉄道や東京地下鉄道（現東京メトロ）など多くの鉄道事業に携わり「鉄道王」と呼ばれた根津嘉一郎（初代、1860～1940）が、1922（大正 11）年に私財を投じて創立した日本初の私立七年制の旧制武蔵高等学校。戦後の学制改革により、1948（昭和 23）年4月に新制武蔵高等学校、翌年に新制武蔵大学、新制武蔵中学校が開設され、学校法人根津育英会武蔵学園として現在に至る。一年次から4年間のゼミナール（小規模で対話型の授業を含む）が必修で「ゼミの武蔵」といわれる。

2020年3月には、ロンドン大学と武蔵大学とのパラレル・ディグリー・プログラムにおいて初のロンドン大学学位取得者を輩出、グローバル教育の更なる発展に力を注いでいる。

2022年4月、学園創立100周年を迎えたこの年に、新学部となる国際教養学部を開設し、経済、人文、社会、国際教養の4学部9学科となった。

2027年4月からスタートする新カリキュラムでは、データサイエンス系の新専攻として社会学部に「情報社会デザイン専攻」、国際教養学部「ビジネスデータサイエンス専攻」を設置予定。さらに国際教養学部の経済経営学専攻は学びを広げ、「経済・経営・国際関係専攻」へと名称を変更予定。

### 建学の三理想

1. 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
2. 世界に雄飛するにたえる人物
3. 自ら調べ自ら考える力ある人物

学長 高橋 徳行 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上 1-26-1